

目次	
口絵	
序	
凡例	
細目次	
第一章 愛知県の工業概況	1
一 一八七八年（明治十一）愛知県工業概況	1
二 一八八六年（明治十九）愛知県工業概況	28
三 一九〇九年（明治四十二）愛知県工業概況	35
四 一九一七年（大正六）愛知県工業概況	37
五 一九三四年（昭和九）愛知県工業概況	52
第二章 綿紡績業	73
第一節 官営愛知紡績所	73
一 官営愛知紡績所の設置	73
二 官営愛知紡績所の払下げ	85
三 払下げ後の愛知紡績所	93
第二節 機械紡績業の展開	98
一 名古屋紡績の開業と展開	98
二 尾張紡績の設立と展開	111
三 三重紡績愛知分工場の設置と兼営織布の展開	125
四 津島紡績・一宮紡績・知多紡績の設立	138
(1)津島紡績	138
(2)一宮紡績	146
(3)知多紡績	147
五 尾勢紡績合同の進展	150
第三節 第一次大戦期以降の新動向	173
一 地元資本による新規開業と紡織兼営の展開	173
(1)服部商店	173
(2)名古屋紡績	178
二 第一次大戦後の県外大資本の進出—日清紡の場合—	188
(1)岡崎紡績の買収による日清紡岡崎工場の開設	188
(2)日清紡名古屋工場の設置	195
三 第一次大戦後の愛知県における綿糸紡績工場	201
第四節 ガラ紡	204
一 ガラ紡に関する各種調査	204
二 ガラ紡機の改良・普及と共進会	243
三 額田紡績組・三河紡績組合・三河紡績同業組合	251
第三章 織物業	267
第一節 尾西・尾北	267
一 明治前期における縞木綿生産の展開	267

二 絹綿交織物への転換とマニユファクチュアの展開	270
三 毛織物への転換と工場制への移行	289
四 毛織物生産での全国制覇	298
五 尾北の織物業	324
第二節 知多	335
一 白木綿生産の展開と問屋制家内工業	335
二 産地の力織機化と問屋制支配の再編—日清・日露戦争期—	344
(1)力織機化の試みと同業組合の組織化	344
(2)力織機化の急展開と販路の拡大	356
三 産地織物の広幅化と大規模工場の出現—第一次大戦期—	362
四 昭和恐慌以降の織物生産の拡大と組合統制	372
第三節 西三河	388
一 三河木綿とその沿革	388
二 織物同業組合の設立	394
三 出機の減少と力織機の導入	401
四 大正・昭和初期の三河木綿	412
第四節 東三河	420
一 三河織物同業組合の設立と展開	420
二 戦間期の三河織物と不況への対応	426
(1)三河織物同業組合の業務成績	426
(2)部会の設置	431
(3)不況への対応	435
三 昭和恐慌期の三河織物	442
(1)三河綿布（織物）工業組合の設立	442
(2)昭和恐慌への対応	450
第四章 製糸業	461
第一節 明治前半期の製糸業	461
一 生糸改会社の設立	461
二 県製糸場設置と湯地恒雄	466
三 尾北と東三の製糸業	470
第二節 日清戦後の製糸業	475
一 県内製糸業の概況	475
二 地元製糸の展開	484
三 県外製糸の進出	490
第三節 日露戦後期から第一次大戦期の製糸業	500
一 県内製糸業の概況	500
二 優良繭の購入と安楽育	510
三 三遠玉糸製造同業組合	518
第四節 第一次大戦後の製糸業	523
一 繭特約取引の展開	523
二 地元製糸会社の再編	532

三 玉糸業の発達	539
第五節 昭和恐慌後の製糸業	548
一 恐慌の打撃と組合製糸	548
二 片倉愛知製糸所の状況	552
三 豊橋地方の製糸業	557
第五章 繊維工業の女性労働者	561
第一節 募集取締規則と県下の概況	561
一 明治期の状況	561
二 大正・昭和期の状況	564
第二節 愛知県への出稼女性労働者	588
一 岐阜県	588
二 静岡県	592
三 富山県	594
四 新潟県	597
五 鹿児島県	600
六 沖縄県	601
七 朝鮮	602
第六章 繊維機械工業	607
第一節 明治期の織機開発と企業化	607
一 織機開発と井桁商会・三井物産	607
(1)豊田佐吉の織機開発	607
(2)豊田佐吉と井桁商会・三井物産	614
二 豊田式織機株式会社の設立と愛知県織機業界	619
(1)豊田式織機の設立と三井物産	619
(2)愛知県織機業界	629
第二節 第一次大戦期の新規参入と紡績機生産の始動	632
一 新規参入と新設企業の始動	632
(1)大隈鉄工所の参入	632
(2)野上機械工業株式会社の参入	633
二 自動織機の製作と紡績機生産の始動	638
(1)豊田式織機製作事業の拡大と下請	638
(2)豊田式織機の紡績機生産	644
第三節 戦間期における紡織機生産	647
一 紡織機の生産・市場概況	647
二 豊田式織機株式会社の発展	650
三 豊田自動織機製作所の設立と進展	674
第四節 内外紡織機メーカーと三井物産—協調と競争—	682
一 豊田式織機・豊田自動織機製作所と三井物産	682
二 豊田のプラット社への特許権譲渡	694
三 両豊田・三井物産の紡織機販売協議会	698
第七章 窯業	731

第一節 名古屋・瀬戸	731
一 明治前期・中期の概要	731
二 名古屋と瀬戸の分業体制の確立	740
三 中小商工業者の集積と輸出	744
四 労働者の状態	759
五 同業者組織と試験所	765
六 近代的企業の設立と発展	777
(1)日本陶器	777
(2)日本碍子	788
第二節 常滑	799
一 明治前期の概況	799
二 生産と流通	812
三 労働者の状態	823
四 同業者組織の事業	826
五 近代的企業の設立	838
第三節 高浜	843
一 生産と流通	843
二 販路の拡大と同業組合	852
第八章 食品工業	857
第一節 酒造業	857
一 酒造業統制の再編	857
二 酒造税増徴をめぐる動向	867
三 明治初年の酒造業一足助地域の事例一	881
四 知多郡酒造業の展開	889
(1)沿革と動向	889
(2)豊醸組の設立と活動	901
(3)生産状況	919
五 碧南の味淋醸造業	928
第二節 その他の食品工業	935
一 酢	935
二 葡萄酒醸造の試み	951
三 トマトソース・ケチャップ	964
解説	977
あとがき	
資料提供者及び協力者	
愛知県史編さん関係者名簿	